



国際武道大学での合同稽古＝約150名の学生とともに稽古。左端は何川さん



片岡振興部副参事と握手を交わす許震宇団長(右)



歓迎懇談会＝松井完太郎体育学部長(右)と許団長



井島講師の指導を受ける許震宇さん(右)

2018年中華人民共和国・重慶市剣道代表团 訪日剣道研修

中国・重慶市から剣道指導者6名が来日
日本剣道の技と心を学ぶ



10月5日から11日にかけて、中華人民共和国・重慶市剣道代表团6名が来日し、日本武道館と国際武道大学で日本剣道の技と心を学んだ。日本武道館は国際武道大学の協力を得て、来日を歓迎。一行は、千葉県勝浦市の国際武道大学と日本武道館研修センターで国際武道大学剣道部長・日本武道館武道学園(勝浦分園)講師の井島章教士八段に、東京では日本武道館小道場で日本武道館武道学園講師の佐藤成明範士八段に指導稽古を受けて剣道の理解を深めた。

国際武道大学・日本武道館研修センター(10月6日・7日)

10月5日、重慶を発った団員は6日の深夜0時15分、千葉県勝浦市の日本武道館研修センターに到着。日本武道館片岡正徳振興部副参事兼普及課長が握手を求め、団の代表者である許震宇さん(重慶剣道センター長)がこれに応じた。片岡振興部副参事兼普及課長が「ようこそ研修センターへ」と歓迎の言葉をかけると、代表团一行(男性4名、女性2

名、計6名)から遠路の疲れが吹き飛んだかのような笑顔が溢れた。10月6日午前10時より、国際武道大学2号館において、井島章国際武道大学教授・剣道部長、田中守同教授・剣道部師範の指導のもと、同大学剣道部の1年生(4年生の男女約150名の協力を得て、合同稽古が実施された。はじめに井島講師より「普段の稽古スタイルを変えて、今日はいきます。3・4年生が元立ち、1・2年生と重慶のみなさんが切り返しを行います。終わりの合図があるまで続けましょう」と説明があった。

社会人になってから剣道を始めた30代(40代)で構成されている重慶の代表团は、普段毎日のように激しい稽古を積んでいる20代の学生の練習についていけず呼吸が乱れ、動きが鈍くなってきた。学生たちが「プアイト!」と声をかけて団員を励ますものの、長旅の疲れと睡眠不足も重なって、男性4名は息が上がったが、女性剣道家の何川さんだけはキビキビと稽古を続けた。▽許震宇さん(42)「すごくハードな稽古だと思いました。その稽古に

ついていけずに残念です。しかし、すごく心がドキドキしています。寝不足のため、体が思うように動きませんでした」▽何川さん(35)「はじめての日本の稽古でした。感動です。中国に帰ったらまた稽古がしたいです」▽許震宇さん(42)「途中から稽古を再開し、井島講師に指導を受けた」▽井島先生はとっても強かったです。打たれてはまた打たれ、打つても打たれました(笑)」

士ならば、本当の友人になれると信じています。それぞれの立場はありますが、同じ武道を志す者同士で真の友達になれたら素晴らしい関係ができると思います。短い時間ですがよろしくお願ひいたします」高見令英学長のメッセージが読み上げられた。「中国重慶市剣道愛好会のみなさまとこれから友好関係を深めていきたいと思います。今回の研修が実りあるものになりますようにお祈り申し上げます」

13時より場所を1号館5階大会議室に移して、国際武道大学主催により、「中国重慶市剣道研修団 熱烈歓迎懇談会」が開かれた。会には、代表团6名、国際武道大学より松井完太郎体育学部長、石井兼輔教授兼国際交流センター長・別科長、井島章教授・剣道部長、野村一也学長室長兼国際室長、日本武道館より片岡正徳振興部副参事兼普及課長、端春彦研修センター室長が出席した。

続いて許震宇代表より代表团挨拶がなされた。「今回はこのような貴重な機会をいただき、国際武道大学および日本武道館のみなさまに感謝申し上げます。午前中に学生さんの稽古に参加させていただきまして、みなさんが情熱をもって剣道をされていることが窺えました。これをきっかけとして国際武道大学と長く交流ができればと思います」

はじめに松井完太郎体育学部長より歓迎の挨拶があった。「国と国の関係は様々に変化いたします。しかし、一度剣を交えた者同

記念品贈呈の後、ランチミーティングが行われ、中国における剣道の現状などの意見交換をしたり、松井、石井、井島氏より武道に関する



日本武道館での指導稽古＝佐藤講師（右）



竹刀の操作法について説明する井島講師（右奥）



研修センターでの指導稽古



団員の動作をチェックする佐藤講師



終盤は地稽古が行われた。右は謝さん



最後は全員で黙想



井島講師による模範



は終了した。佐藤講師がまとめて、稽古は終了した。

「剣先を中心から外さないことが大切で、逆に言えば相手の剣先を外すと一本を決められます。それを意識すると剣道がますます面白くなります」と佐藤講師がまとめて、稽古は終了した。

佐藤講師は「剣道の基本とは？」と団員に投げ掛ける。戸惑う団員たちには「一つは刃筋を直すこと。それには素振りが重要です。まっすぐ上げて、真っ直ぐ下ろしましょう。もう一つは姿勢です」と続けて答えを出した。次に竹刀の握り方や面、小手、胴の基本操作を指導。「竹刀は大きく動かすことが大切です。大きい動作ができれば必ず小さい動作はこなせます」と理路整然と操作方法を説明。一方で、団員に基本動作を行わせ、正しい動きがなされているか鋭くチェックしていった。その都度、修正を加えていく佐藤講師。

同日18時より、なぎなたと杖道の体験武道が行われた。なぎなたでは吉井美恵子武道学園講師が指導にあたった。はじめに団員は、なぎなたの演技と試合を見学。防具を着けた指導では「なぎな

△謝家寧さん(35)「色々勉強になりました。剣道の一つ一つの動作について見直しが出来ました。佐藤先生はユーモアに溢れていて、稽古では細かく分かり易い指導をして頂きました」

▽佐藤成明日本武道館武道学園講師「皆さんかなり出ていますね。基本的なことは抑えていると思います。むこうで大分、稽古されているのではないのでしょうか。井島先生の指導も効いてますか(笑)。何川さんには数年前に北京で指導しましたが、上手くなっていました。しかし、スピードなど未熟な面もありますが一生懸命にそして正しく、やろうという意志は感じました。北京でも今日と同じような指導をしてきましたが、指導してきたことをしっかりと守っています。団を組んで来るだけのことはありますね」

「午前中は体が硬かったのですが、午後になるとみんな動いていました。ただし、レベルはまだまだです。一

「井島国際武道大学教授兼剣道部長、日本武道館武道学園(勝浦分

井島講師より「剣道は生涯できる武道です。私は61歳ですが学生たちと稽古をしています。50m走ったら学生に負けますが、竹刀を握れば学生には負けません。それが剣道のいいところです。ぜひ今後も剣道を続けてください」と剣道の特徴について触れ、指導が開始された。

様々な知見が時に冗談を交えながらわかりやすく丁寧に説明された。15時より研修センター大道場において、井島章日本武道館武道学園(勝浦分園)講師のもと、国際武道大学剣道部11名の協力を得て指導稽古が実施された。

「午前中は体が硬かったのですが、午後になるとみんな動いていました。ただし、レベルはまだまだです。一

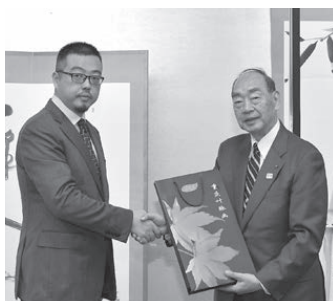
基礎・基本が大切です。少し前に福井県で国体がありました。県内での開催ということで、福井では5年前から強化練習を重ねて来ました。ここでの稽古は姿勢、構え、素振りの基本練習を中心として行ってきました。その結果、国体で福井は優勝することが出来ました。ちなみにコーチは私です(笑)」と基本の大切さを強調。続けて行われた指導も基本を中心としたものとなった。

9日14時より、場所を東京・日本武道館第2小道場に移して、日本武道館の武道学園講師である佐藤成明範士八段の指導が行われた。

はじめに、佐藤講師より「剣道は基礎・基本が大切です。少し前に福井県で国体がありました。県内での開催ということで、福井では5年前から強化練習を重ねて来ました。ここでの稽古は姿勢、構え、素振りの基本練習を中心として行ってきました。その結果、国体で福井は優勝することが出来ました。ちなみにコーチは私です(笑)」と基本の大切さを強調。続けて行われた指導も基本を中心としたものとなった。



武道学園での合同稽古



懇親昼食会＝臼井理事長と許団長



佐藤成明 日本武道館 武道学園講師



臼井日出男 日本武道館理事長



三藤芳生 日本武道館 常任理事・事務局長



許震宇 重慶市剣道 代表団団長



なぎなた体験会＝1列目右端が徐欣さん



なぎなた体験会＝なぎなたについて説明する吉井講師(左)



杖道体験会＝藤崎講師(右)のもとで実施された



杖道体験会

出席者は他に日本武道館より吉野喜信振興部長、片岡正徳振興部副参事兼普及課長、清宮正喜普及課主事。はじめに臼井日出男理事長より挨拶が述べられた。

「ようこそ日本武道館へ。ご来日いただいた重慶の皆様から真摯に剣道を学ぼうという意志が強く感じられます。日本武道館は現代武道9種目と古武道70数流派の振興普及に努めております。海外に日本武道代表団を派遣しておりますが、今回のように海外の武道団を受け入れるのは近年ではありませんでした。今回の受け入れを歓迎するとともに剣道を学んでいただきたいと思っております」

次に佐藤成明武道学園講師より挨拶があった。

「皆さんとは2日間という短い間でしたが、お手合わせできたことを大変嬉しく感じております。短期間ではありますが今回経験したことは皆さんが稽古する時、指導する時に手助けとなればと思います。今日の稽古で出たと思えますが、いい技が出た時は運動として美しいでしょ？ ただの腕力ではない運動文化としての剣道を理解していただければと思

ます」

続いて重慶市剣道代表団団長の許震宇・重慶剣道センター長より謝辞が述べられた。

「今回の来日につきまして、日本武道館の皆様にご多大なご協力を賜り、感謝申し上げます。中国では剣道の歴史がまだ浅く、競技人口が少ないのが現状です。今回ご指導いただいた正しい剣道を中国でも広めていきたいと考えています」

記念品贈呈の後、昼食会が行われ、様々な話題に花が咲く。特に団員たちは国際武道大学との繋がりができたことを喜び、日本武道館に感謝を述べた。日本武道館の三藤芳生常任理事・事務局長は「今後、要請がありましたらそれに応えたい」と伝えた。

会では佐藤講師へ剣道に関する様々な質問が投げかけられ、佐藤講師はそれに丁寧に答えていく。「基本はウォーミングアップだと思っていました。最初の心構えが間違っていました」と何川さん。それに対し許さんは「今後は基礎・基本を大切に。続けて佐藤講師より「試合は

たには剣道には無いスネがありません」と吉井講師が説明。

なぎなたの体験では、吉井講師がなぎなたを左右反対に持ち替えると団員たちから驚きの声上がる。「なぎなたは左右で持ち替えて行います」と吉井講師は説明すると、剣道には無いなぎなたの操作法に団員たちは興味を示していた。いざ、なぎなたの素振りとなると長いなぎなたの操作に不慣れた団員たちは道場の壁になぎなたを当ててしまう場面も見られる。「ムズカシイ！」と団員たち。「できなくてもいいからね。やりましょう」とそれを笑顔で躉す吉井講師であった。

最後は全日本なぎなたの形1本目5本目を行って終了した。

吉井講師は「最初は皆さん戸惑っていましたが、剣道を稽古していただきますのでやはりお上手ですね。手の内が分かっていると思います。持ち替えはなぎなた特有の動きなのでそこは戸惑っていましたが」と稽古を振り返った。

▽徐欣さん(31)「なぎなたは古流のイメージがあり、とてもかっこいいです。左右でやるのが剣道と違

かに基本を応用するのだが、もう一つ剣道・武道の精神性も触れてもらいたい」と繋げた。最後に三藤常任理事・事務局長より武道の歴史についての説明があり「重慶の皆さんには人間性を高める剣道の教育集団であってほしいと思います」と伝えた。

閉会の挨拶として三藤芳生常任理事・事務局長が次のように述べた。「佐藤先生、井島先生の剣道に対する姿勢・態度をしっかりと皆さんは学べたことと思います。皆さんの質問を聞きまして、正しいものを学んでこられたと確信しております。今後、中国・重慶の剣道が立派に発展していくことを期待しております」

◇

同日18時30分より、最終行事となる日本武道館武道学園との合同稽古が行われた。

団員たちは佐藤講師、井島講師の指導を思い起こしつつ、学園講師による指導のもとで、学園生徒とともに基本稽古、地稽古をこなした。

最後に許震宇団長に「全日程で印象に残ったことは？と尋ねると「やはり、基礎・基本を大切にすることです」と笑顔で返答があった。

て魅力を感じました」

続いて、藤崎興朗武道学園講師のもと、杖道の体験が行われた。「太刀と杖で形を行うのが杖道です」と藤崎講師は説明。約30分の見学の後、体験に移った。

体験では、団員たちは、藤崎講師の動作を見習いつこなしていく。「みんないい！ 初日でこまではなかなかできませんよ」と藤崎講師は団員たちを絶賛する。

体験の最後には、「杖道は形稽古のみです。互いの技術が高まると、面白いことに形であって形でない技ができるようになります。また杖と太刀の長さが違うところも魅力の一つです」と藤崎講師は杖道の魅力を語った。

◇

稽古後も、団員たちは杖道の成立ち、稽古法など様々な質問を藤崎講師に投げ掛けていた。

10日、午前は前日に続いて佐藤講師による指導。正午より場所を日本武道館大会議室に移して、日本武道館の臼井日出男理事長、三藤芳生常任理事・事務局長、佐藤成明武道学園講師との懇親昼食会が開かれた。